

## ドイツ

所属協会の名称：BGSD

発表者：タビア・フィリップス

メール・アドレス [Tabea@dolmetschservice.com](mailto:Tabea@dolmetschservice.com)

### 1. 手話通訳の現状

我々ドイツ手話通訳者協会（BGSD）は、2010年1月に活動を中止した。理由は加盟団体からの期待がきわめて多様であったからである。ドイツには16の連邦州があるが、手話通訳のレベルは州によって大きく異なる。全国団体にとって、均一な政策を導入するのが大変難しい状況であった。発展中の州のレベルを上げるのに、進んでいる州のレベルを下げざるを得ないし、半分以上の会員がほかの州の70%を目標にしているところ、進んでいる州の要望を応じるのが難しいことである。ほかの協会から強力な指導を受け、前協会よりしっかりとした組織方針を持つ全国組織の設立が望まれている。再設立の動きは着々と進んでおり、新しいBGSDの到来を楽しみにしている。

前協会の時、一年の指導プログラムがあり、10名の指導員と学習者を生み出す実績を残した。指導員は無償のボランティアなので、学習者の応募が予想を上回った。一年間のプログラムが成功した後、指導員不足のため、継続されなかった。

新しく成立した法律によって、我々に対する支払は2007年に向上した。その支給形態は、2008年から医療通訳サービスにも適用されるようになった。そのおかげで、支給水準が大変よくなり、自宅を出てから帰宅するまでの移動時間も勤務時間として計算されるようになった。多くのヨーロッパの国と同様に、我が国の大学も旧卒業資格として扱い、国際基準の学士号・修士号と提携している。来年、ハンブルク大学から最初の手話通訳学士号が生まれることを期待してい

る。卒業生全員が修士課程に進学するとは限らないので、一部の新卒学士が通訳業界に進出し、従来の学士号課程が要求するような実習を、半分程度を受けたい。このことが我々の通訳にどのくらいの影響をもたらすだろうか。

## **2. ろう社会の現状**

我が国のろう社会について、一つ強調しておきたいことがある。それは、ハンブルク大学がろう通訳者プログラムを開講したことである。受講生たちは、州立認定試験を受け、講座を修了した。6単位を2週の週末に渡っての講義であった。そのため、現在我々には10から12名のろう者のリレー通訳者がいる。これから設立する予定の新協会に彼らも含むべきなのか、それとも別の協会を設立するように促すべきなのか、決めかねている。ろう通訳者との協働経験はまだ少ないので、これから経験を積み重ねていきたい。

## **3. 国内の手話通訳コミュニティの、2007年以降の2大成果**

上述したように、報酬水準を医療通訳サービスにも適用させたことと、指導体制の確立したこと。

## **4. 国内の手話通訳コミュニティの今後の2大課題**

上述したように、来年仲間入りしてくる新卒学士通訳者たちとの扱いと、全国協会の再建。

## **5. 今後の2~4年間、WASLIに貢献できること**

個人的に貢献できるのは、WASLIに協力し続け、ドイツの手話通訳レベルを更に高めて行くことである。そして、ドイツの協会としては、全国組織になったら、意見集約を大事にしていきたい。



## インド (ISLIA)

協会名：インド手話通訳者協会－ISLIA

報告者：モニカ・プンジャビ・ベルマ

Eメール：[infoislia@gmail.com](mailto:infoislia@gmail.com)

### 1. 手話通訳者の現状

- ・ インドでは手話通訳者は新しい概念である。現在では様々なレベル（大学以外）での養成プログラムの受講が可能であり、認定と監視を行う政府機関からも承認を得ている。この養成プログラムは政府が作成したにもかかわらず、通訳者のための雇用創出策はとられていない。政府は今後の雇用の見通しを立てる決定のために、ろう者に対する通訳者の必要性についてのレポートの作成を要請している。これはインドの発展に対するよい兆候を示しており、私たちのロビー活動や政府機関との協働の結果である。
- ・ インドリハビリテーション評議会に認定された通訳指導者となるためのプログラムが提案されている。インドリハビリテーション評議会（RCI）－政府組織が全ての養成プログラムを規制、監督している。

### 2. ろう社会の現状

- ・ 都市圏のろうコミュニティは（少数だが）大きな進展を果たした。数名のインド人ろう者が国際有リーダープログラムに参加しその国際経験から得たものをインド国内、特にろう青年の間で広めている。ろう青年は、様々なろうコミュニティの発展に接し、ろう者の権利を学び、ろう者のアイデンティティ、ろう者の自覚、ろう教育での手話の使用を知り、最近では日々実力をつけてきている。
- ・ 農村部のろうコミュニティは現在でも認識されず、未就学である。
- ・ 最近では、ろう者のための応用手話研究の大学の講義において、有能な未来の手話指導者や研究者の養成をしている。

### 3. 国内の手話通訳コミュニティの今後の2大課題

- ・ インド手話通訳者協会（ISLIA）を創設した。通訳業の必要性と重要性から、全国大会の開催、ろう手話指導者と聴者手話通訳者による実演を含めた養成講座の開催、一般参加者に対するメディア使用による指導、全インドろう者連盟からの代表者に対する指導を行った。

- ・ 現在インドには多数のろう者がいるにもかかわらず、専門的手話通訳サービスを依頼する組織がほとんどない。しかし、報酬にかかわる問題は依然として課題になっている。

#### 4. 国内の手話通訳コミュニティの主要な2大課題

- ・ 手話通訳が専門職であり、全ての通訳者が十分な報酬を得ることができるような認識を得て、専門職として仕事に就くこと。資格者は専門職としての通訳の選択に興味を示さなくなる。
- ・ 様々な通訳状況に対応できるようになるための、さらなる集中養成課程を開くこと。

#### 5. 今後の2-4年間のWASLIに貢献できること

インドの通訳者の養成、身分、機会などの改善に関するよりよいニュース。

ISLIA としては、手話通訳業の周知と認知への働きかけを進めるためにインドでの WASLI 地域会議、WASLI 大会、WASLI 養成講座等の WASLI の名を冠した活動の主催をお願いしたい。

